

「天国が近くなる」

黒田 朔

ハワイのマキキファミリーから二日続きで訃報が届く。



G.Y.さんと聞けばカスタードパイ。毎週木曜日、ボランティアのためのランチシェフ。毎週、夫々の奉仕を終えて集まると、Gさんのランチが待っていた。デザートがカスタードパイの日は「ハイ、パスター！これ、子どもたちに」と我が家用のカスタードパイが準備されていた。あのパイをもう一度楽しむのは天国か・・・。

今朝、S.M.さんの死亡広告の切り抜きが届く。几帳面な S さんがいるだけで、マキキのキッチンが鍋の底までピカピカになった。マキキの幼稚園がハワイ州で優良幼稚園として知られるようになったのは S さんのお蔭。時々、夕食に招待されていくとダイニングルームに手作りの料理が並び、「どうぞ、召し上がれ」と勧めてくださった。日本以上に日本らしいハワイの日本人二世がまた一人去った。今週から 9 月、今年も天国が近く感じる秋を迎える。

「しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。」(ピリピ 3:20)